平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	４８	都道府県・指定都市名	札　幌　市
（生徒数）	札幌市立上野幌中学校（さっぽろしりつかみのっぽろちゅうがっこう） （３３８名）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：北海道札幌市厚別区上野幌２上丁目 10 番１号
電話番号：０１１－８９５－０５３１　ＦＡＸ：０１１－８９５－３２７９
学校ホームページ URL：http://www12.sapporo-c.ed.jp/kaminopporo-j/
メールアドレス：kaminopporo-j@sapporo-c.ed.jp （ID:sch34507 PW:946d786w）

【研究成果のポイント】

○研究のキーワード：高め合い　学び合い　表現できる　学習形態
○研究成果のポイント：
・思考力・判断力・表現力を育成する学習形態
・考えの変容が分かるような学習カードの工夫

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

「未来へつながる保健体育学習」
―自ら仲間と高め合いながら，心と体をはぐくむ生徒の育成―

（２）研究主題設定の理由

本校では，研究主題を「互いに学び合い，表現できる生徒の育成～自他で学び合える基礎づくり～」とし，人との関わりの中で，生徒が自分の考えを新たに発見し，進化させることで基礎・基本を身に付けることを目指している。学校全体として明るく純朴な生徒が多く，活動に一生懸命取り組み，しっかりとした態度で学習に臨むことができる。しかし，友達を認め，自分を高めようとする態度が不足し，自分の考えや気持ちを表現することが苦手な生徒が多い。

保健体育科における生徒の実態については，運動が好きといった生徒が多く，学習に対し前向きに取り組むことができている。しかし，運動時間が少なく，技能の習得が不十分なため，学習したことを表現し，実践することが苦手な生徒が多い。

保健体育科ではこうした実態を基に，仲間と関わり学び合う中で，指摘する，試す，考えたことを表現する等の学習の充実が必要であると考え，授業改善に取り組むこととした。

具体的には，身に付けた基礎的・基本的な知識や技能を活用し，思考力や判断力を向上させる学習形態を工夫することや，思考の変容がわかるような学習カードの工夫などに取り組むこととした。こうした指導方法の改善を通して，健康を保持増進し，生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に寄与するものと考え，本主題を設定した。

（３）研究体制

札幌市教育委員会 北海道教育大学札幌校 札幌市内小中学校 札幌市教育研究推進事業保健体育部会 札幌市厚別区保健体育部会 札幌市学校体育研究連盟	校内研究推進委員会 （校長　教頭　教務　研究） 教科部会 （保健体育科）

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	○研究計画の作成と修正　○生徒の実態把握（アンケート） ○校内における授業研究 ○「バレーボール」の授業公開・発表（札幌市厚別区保健体育部会） ○「保健の授業公開」（札幌市学校体育研究連盟　授業プロジェクト主催 ） ○「バレーボール」「保健」の授業公開（札幌市学校体育研究連盟研究大会） ○研究を進めている学校への訪問（秋田県大館市立東中学校） ＊月２回程度，近隣の保健体育科教諭を招き授業検討会を実施

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

○身に付けた基礎的・基本的な知識や技能を活用し，思考力や判断力を向上させていく学習形態の工夫

・学習指導要領の例示や内容を参考に，指導内容を明確にして授業を行った。

・体育分野も保健分野も個から集団（グループ），そして再び個へ戻るスタイルで学習を展開した。

・体育分野ではホワイトボード（作戦盤）を使い，保健分野では運動習慣の具体的な例示を使いながら思考を促す授業を行った。

○思考の変容がわかるような学習カードの工夫

・書く視点を明確にし，思考の流れがわかるような形式にした。

・同じ課題の内容を見比べられるようにレイアウトし，個人での考えと集団のフィルターを通した後の考えが一目でわかるようにした。

○種目別教科担任制

・保健体育科教員が学年の枠を越えて種目ごとに担当する仕組みで授業を担当した。具体的には，①運動量の確保や場の使い方を工夫した。②評価や指導の一貫性を保つことができた。③生徒の良さを多角的に見ることができた。④保健体育科の教員同士で授業を観察し合い，改善を行った。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

考える場面で，個から集団（グループ），また個へ戻るスタイルを取り入れたことで，新たに気付く，自分の考えが確認できる，考えたことに自信がもてるなどの効果が見られた。また，ホワイトボードや具体的な例示を使っていくことで，考えを全体化し，スムーズな思考を促すことができ，的確な表現につながった。

１時間１時間の学習内容や，個人での考えと集団のフィルターを通した後の考えが見える学習カードを工夫したことで，自分の考えを振り返り，次につなげ，アドバイスを参考にする姿があり，思考力・判断力・表現力の向上が見られた。

単元において，生徒の実態を踏まえ，体育分野では，コートの広さや人数などを検討すること，保健分野では，知識を活用する手立てを考えて，授業を構成したことにより，生徒の授業に対する取り組み方が変わってきた。

（２）研究成果の意義等

思考力・判断力・表現力が高まるような基礎的・基本的な知識や技能を教えることによりそれが高まっていくと感じた。それには，生徒に身に付けさせたい力を明確にし，教えるための多角的な授業を検討しながら研究をしていくことに研究意義を感じた。

（３）指定期間終了後の取組

１年間の研究の成果を日常の授業の中に継続して取り入れ，生徒がより思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるように授業を構築していきたい。また，研究会等で実践を発表し,札幌市及び近隣校での保健体育の授業実践交流を図っていきたいと考える。